



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)  
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男  
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2  
TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171  
メール: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

## 自動車工業団体新春賀詞交歓会に出席

昨年12月には日本自動車工業会の池史彦会長を表敬訪問



↑ 昨年12月、日本自動車工業会 池史彦会長を表敬訪問した際の写真。  
(左から) 酒井副代表理事、吉川副代表理事、日本自動車工業会 池史彦会長、  
河村代表理事、清水理事、木内総務部会長。

1月5日、グランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)にて、自動車工業4団体(日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、日本自動車車体工業会、日本自動車機械器具工業会)共催の「2016年 自動車工業団体新春賀詞交歓会」が開催されました。

ELV機構は、日本自動車工業会の招待を受けて同会に出席しました。昨年12月には、ELV機構役員らが日本自動車工業会の池史彦会長を表敬訪問する(写真参照)など、交流を深めています。

賀詞交歓会当日は、関係者約1,850名が参加し、林幹雄経済産業大臣や石井啓一国土交通大臣がご挨拶をされていました。また、主催団体を代表してご挨拶をされた日本自動車工業会の池史彦会長からは、業界を取り巻く環境変化をふまえ、「国内市場の活性化」「国内事業環境の改善」「安全と環境に関する諸課題への対応」の3つをキーワードに、より一層取り組みを強化していくといったお話がありました。

## 目次

巻頭言	1
自動車団体賀詞交歓会	1
マイナンバー導入	2
2つの検討会発足	4
地域の取り組み紹介	5
ELV機構会員ニュース	5
鉄スクラップ最新情報	6
行事予定・お知らせ	7
編集後記	7

## 巻頭言

先日出席させて頂いた講演会で経営者は三つの目が必要だと聞きました。一つ目は足元を。二つ目は周囲を。三つ目は未来を。昨年からの資源価格低迷、使用済自動車の在庫減少と、明るい材料が乏しく、足元しか見られない現実。しかし、三つの目と社員の力でこの難局を乗り切りたいと感じ、翌日の朝礼で一層の業務改善の話から始めました。そして、その日は毎年恒例の裸参りに兄弟三人で参加しました。これも今年で八年目。今年は特に厳しい寒さとの戦いでしたが、商売繁盛、家内安全を願って参加しました。毎年地元の会社や個人の参加者が増え、行動と継続の大切さを実感した両日でした。

(広報部会 平地 健)

# マイナンバー制度導入、自動車重量税還付申請変更へ

自動車重量税還付申請には、個人番号(マイナンバー)の記載が義務づけられています！

2016年1月よりマイナンバー制度が導入されたことに伴い、自動車重量税還付申請においては、**個人番号(マイナンバー)又は法人番号の記載が必要**となりました。よって、OCRシート(第3号様式の3)の様式も改正されています。

★詳しくはこちら → <http://www.mlit.go.jp/jidosha/kensatoroku/toroku/dai3no3.pdf> をチェック！

では、具体的にどのような書類が必要になってくるのでしょうか？

## ■ 本人申請の場合

「①番号確認のための書類」と「②身元確認のための書類」の2種が必要。

① 番号確認のための書類 (以下のいずれか)
個人番号カード(※)
-----
通知カード
-----
個人番号が記載された住民票の写し

……など

+

② 身元確認のための書類 (以下のいずれか)
個人番号カード(※)
-----
運転免許証
-----
旅券(パスポート)

……など

(※)「個人番号カード」は①と②の両方の書類を兼ねるため、1枚でOK。

その他の場合は、「通知カード」と「運転免許証」など、必ず①と②の2種の書類が必要。

## ■ 代理人申請の場合

「①代理権確認のための書類」と「②代理人の身元確認のための書類」と「③申請者本人の番号確認のための書類」の3種が必要。

① 代理権確認のための書類
委任状など

+

② 代理人の身元確認のための書類 (以下のいずれか)
代理人の個人番号カード
-----
代理人の運転免許証
-----
代理人の旅券(パスポート)

……など

+

③ 申請者本人の番号確認のための書類 (以下のいずれか)
申請者の個人番号カード又はその写し
-----
申請者の通知カード又はその写し
-----
申請者の個人番号が記載された住民票の写し

……など

(次ページに続く)→

## 個人番号(マイナンバー)を預かるために事業者はどんな準備が必要なのでしょうか？

前ページのとおり、代理人として自動車重量還付申請を行う場合には、お客様(申請者)の個人番号の情報を預かることとなります。マイナンバー法では、**他人のマイナンバーをひとつでも取り扱えば、その事業者は「個人番号取扱事業者」とみなされ、安全管理措置の義務を負う**ため、事業者は以下の準備が必要となります。

1	<b>基本方針の策定</b>
	<p>特定個人情報等の適正な取り扱いの確保について、組織として取り組むために基本方針を策定しなければならない。また、その基本方針を従業員に周知しなければならない。</p> <p>★基本方針の内容：関係法令・ガイドラインなどの順守、取扱規程を定めていること、窓口などを明記しておく。</p>
2	<b>取扱規定等の策定</b>
	<p>特定個人情報等の具体的な取り扱いを定める取扱規程等を策定しなければならない。</p> <p>★取扱規定等の内容：以下の「3 組織的安全管理措置」～「6 技術的安全管理措置」の4つについて内容を明記し、責任者・事務取扱担当者などを決め、特定個人情報等を取り扱う際の事務の流れを整理しておく。</p>
3	<b>組織的安全管理措置</b>
	<p>特定個人情報等を取り扱うための組織体制を整備する。取扱状況の記録・確認手段を明確にして、情報漏えい等の事案に対応する体制を整えておく。</p>
4	<b>人的安全管理措置</b>
	<p>事務取扱担当者に対して、特定個人情報等の適正な取り扱いがされるよう監督・教育を行う。</p>
5	<b>物理的安全管理措置</b>
	<p>特定個人情報等を管理・保管する区域(管理区域)と特定個人情報等を取り扱う事務を行う区域(取扱区域)を明確にし、入退室管理など物理的な安全管理対策を実施する。</p> <p>また、特定個人情報等を取り扱う機器や電子媒体、書類の盗難防止対策を実施する。</p>
6	<b>技術的安全管理措置</b>
	<p>特定個人情報等を取り扱う機器・システムについて、アクセス制御、アクセスする者の識別・認証、外部からの不正アクセス防止、情報漏えい防止などを行う。</p>

文書の作成

具体的な管理措置

## 個人番号(マイナンバー)の詳細に関しては、どこをみればいいのでしょうか？

### 個人情報保護委員会のホームページ

 <http://www.ppc.go.jp/legal/policy/document/> (クリックするとページが開きます)

事業者向けの説明資料として、事業者の規模や種類別にまとめられたガイドラインが掲載されています。

### 内閣官房のマイナンバーに関する特設ページ

 <http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/bangoseido/faq/faq4.html> (クリックするとページが開きます)

民間事業者におけるマイナンバーの取り扱いに関するQ&Aがまとめて掲載されています。

# 自り制度見直しの議論を受け、2つの検討会が発足

昨年9月、中環審・産構審合同会議での自動車リサイクル制度施行後10年に伴う見直しの議論を経て、「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」(以下、「報告書」)がとりまとめられました。報告書の内容を受け、このたび以下の2つの検討会が発足しました。それぞれの検討会に、ELV機構役員が委員として選出され、出席しています。

## 1. 情報発信の在り方等に関する検討会

■**主体** 経済産業省、環境省、自動車リサイクル促進センター(以下「JARC」)

■**趣旨** 自動車ユーザーへの情報発信等の取り組みについて、報告書に示された次の課題に対応すべく、自動車ユーザー・自動車製造業者等・関係事業者・自治体・国・JARCに代表される関係主体で連携して、自動車リサイクル制度における役割を改めて確認するとともに検討を行う。

- (1) **自動車製造業者等・解体業者等におけるユーザー等への情報発信**
  - ・環境配慮設計・再生資源利用の進んだ自動車へのユーザー選択の促進
  - ・リユース・リビルト部品のユーザー選択の促進
- (2) **引取業者におけるユーザー等への情報発信**
  - ・引取業者による情報提供の在り方、国による伝達及び引取業者による対応
  - ・使用済自動車の価値等に係るユーザーへの情報発信
- (3) **JARC機能の一層の発揮**
  - ・システム改善ニーズの把握、JARCによるユーザーへの情報発信
  - ・JARCが管理する使用済自動車の再資源化状況等データの活用

■**現状** 第1回は昨年11月24日、第2回は1月26日に開催。  
ELV機構からは酒井副代表理事が委員として選出・参加。

■**予定** 2016年7月までに検討会を5回開催した後、中環審・産構審合同会議(8月予定)にて報告を行う。  
第3回は3月、第4回は5月、第5回は7月に開催予定。

## 2. 自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上に向けた検討会

■**主体** 経済産業省、環境省、三菱総合研究所

■**趣旨** 今後の自動車における3Rの推進・質の向上について、国が中心となって有識者・関係者と連携しながら、報告書に示された次の5つの検討項目の検討を実施し、施策の具体化を図る。

- (1) 環境配慮設計の推進とその活用
- (2) 再生資源の需要と供給の拡大
- (3) 自動車に含まれる有害物質の削減
- (4) 自動車リサイクル全体の最適化を通じたリサイクルの質の向上
- (5) リユース・リサイクルの推進・質の向上の進捗状況の把握・評価

■**現状** 第1回は1月8日に開催。ELV機構からは木内総務部会長が委員として選出・参加。

■**予定** 2016年7月までに検討会を5回開催した後、中環審・産構審合同会議(8月予定)にて報告を行う。  
第2回は3月、第3回は5月、第4回は6月、第5回は7月に開催予定。

# ブロック・地域団体の取り組み紹介

## ■ブロック会議 開催実績&開催予定

★開催実績（昨年12月～本年1月分）

開催日	会議名	開催場所
2015年12月 1日	関東ブロック会議	ELV機構会議室（東京都港区）
2015年12月 7日	東北ブロック会議	パレスへいあん（宮城県仙台市）
2016年 1月16日	九州ブロック会議	サンライフホテル2・3（福岡県福岡市）

★開催予定（本年2月分）

開催予定日	会議名	開催場所
2016年 2月 3日	沖縄ブロック会議	デイゴホテル（沖縄県沖縄市）
2016年 2月22日	東北ブロック会議	パレスへいあん（宮城県仙台市）

## ■大阪自動車リサイクル協同組合の取り組み



大阪自動車リサイクル協同組合は、昨年12月6日～7日、広島県にて1泊2日の研修会を行いました。広島県のELV機構会員との懇親会や事業所見学を通じて、ブロックを越えた交流を深めました。詳細は、同組合のホームページよりご確認ください。

【大阪自動車リサイクル協同組合のホームページ】

<http://www.osara-net.or.jp/kaiinsenyau/151206/151206.html>

↑こちらをクリック！

ELV機構会員事業所より  
情報提供いただきました！

## ELV機構会員ニュース

### ■「緑十字銅章」受賞／有限会社西川商会（鳥取県鳥取市）

11月10日鳥取県主催の交通安全県民大会で、弊社社長が、全日本交通安全協会交通栄誉章「緑十字銅章」を受賞いたしました。この章は、多年に亘り交通安全活動に尽力し、多大なる功績が評価された交通安全功労者へ贈られるものです。受賞いたしました弊社社長西川は、「使用済自動車を扱う弊社は、創業43年目を迎えていますが、交通安全への思いは、創業当初から一切変わっていません。これからも悲惨な交通事故から社員を守り、家族を守り、地域を守る活動を微力ではありますが、継続して取り組んで参ります。」とコメントしています。また、弊社では、11月20・21日に実施された中四国の消防士約60名が参加して行われた車両事故を想定した訓練会に訓練場所及び訓練用車両の提供等の支援も行っています。

### ■タイヤホイール自動取り外しロボ開発／株式会社シーパーツ（山口県岩国市）



株式会社シーパーツは、自動的にタイヤからホイールを外してタイヤの品質もチェックできるロボット「全自動品質管理機能付きタイヤ脱着システム」を開発しました。これは、安川電機などと協力して制作したもので、重量は1,050キログラムと1,020キログラムの2種類があり、制御盤のタッチパネルで操作します。株式会社シーパーツでは、すでに岩国工場と山口工場を導入しており、このロボットで取り外したタイヤとホイールを販売しています。

# 鉄スクラップ最新情報

## ■ 1月第3週(15日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供: 日刊市況通信社]

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



1月15日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	14,500 ~ 15,500	軟調様子見
	南関東	14,500 ~ 15,500	軟調様子見
名古屋		15,000 ~ 16,000	軟調様子見
関西	大阪	14,500 ~ 16,000	様子見
	姫路	14,500 ~ 15,500	様子見

### 海外ミルの引き合いあり輸出相場堅調

日本産鉄スクラップの輸出価格が堅調な推移を見せている。韓国や台湾などからの引き合いが続き、海外ミルが積極的に日本玉を手当てしているためだ。日本国内相場は昨年末から下落基調に転じ、年明け後も電炉筋の値下げ改定が全国に広がった。しかし、現在の輸出価格が国内相場と同等かやや高値にあり、国内相場を下支えする要因となりそうだ。

貿易筋によると、韓国の現代製鉄は14日、日本のH2に対し1トあたりFOB16,000円を提示。成約数量によっては300~500円の加算することも検討している。また、台湾ミルがH1・H2mixをCFR170ドル強で手当てしているもようだ。為替相場は円高に振れているものの、H2のFOB価格に換算すると、FOB16,000円を十分に上回る水準(1ドル=118円で計算)。数量や台湾内の向け先によっては海上運賃が低く抑えられる場合もあり、FOB価格はさらに高値となることもある。

足元の東京製鉄の特級購入価格は拠点別に14,000~16,000円で、現在の輸出価格とほぼ同等の水準にある。国内市場では先安見通しが根強いが、輸出価格が歯止めとなる可能性も出てきた。海外ミルの積極的な引き合いがいつまで続くかが、当面の焦点だ。

### 【関東地区】軟調もようの中、輸出動向を様子見

関東地区の鉄スクラップ市況は、14日まで電炉筋の値下げが散発しており、15日の週末時点では軟調もよう。ただし、海外ミルが日本玉手当てに積極的なため、輸出市場の動向を様子見する機運が広がっている。H2炉前実勢価格は14,500~15,500円中心。H2浜値は、1トあたり14,000~14,500円中心、高値14,700~14,800円見当だ。なお、関東地区の鉄スクラップ需要量は昨年12月~1月と2カ月連続で40万トを割り込む見通しだ。

### 【東海地区】様子見気配で月後半入り、発生は年末前の水準に回復

名古屋地区の鉄スクラップ市況は弱気感を残しながらも、様子見気配で月後半に入っている。電炉メーカーは1月に入り9日までに500円方の値下げを一巡させた。H2炉前実勢価格は15,000~16,000円どころ中心。その後、特殊鋼メーカーを中心に14日から新断スクラップの高値修正下げも見られた。域内の鉄スクラップ発生状況はほぼ年末年始前の水準に回復しているもようだが、ヤード業者には「全体的には低調」という声がある。

### 【関西地区】内外格差背景に様子見商状つづく

大阪地区の鉄スクラップ市況は保合い商状。各社、一定の入荷レベルを保ちつつも、韓国向け輸出商談の上伸を受け、東京製鉄の8日の値下げ以降、買値を据え置いている。また下げ足を揃えてこなかった電炉筋も先行筋にまだまだ同調していないため、様子見の展開となっている。H2炉前実勢価格は14,500~15,500円(一部上値16,000円)、新断バラ炉前実勢価格は同16,500~17,300円。姫路地区のH2炉前実勢価格は14,500~5,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、1月15日午後時点のもの)

# 行事予定

## 2月の主な予定

2月1日(月)

- JIS開発事業  
委員長合同委員会

2月3日(水)

- 第2回 リサイクル・サミット
- 沖縄ブロック会議

2月4日(木)

- 自動車リサイクル士  
第4回 カリキュラムWG
- 第2回 4法人意見交換会

2月9日(火)

- JIS開発事業  
第2回 原案作成委員会

2月10日(水)

- 近畿ブロック会議

2月16日(火)

- 環境管理センターからのヒアリング
- 第11回 広報部会

2月22日(月)

- 東北ブロック会議

2月23日(火)

- 第4回 ブロック長会議

2月25日(木)

- 自動車リサイクル士  
新制度移行特別認定講習会

大阪会場

2月29日(月)

- JIS開発事業  
第6回 原案作成WG



## お知らせ

### ◆会員数 (2016年1月末日時点)

総数 597社 / 会員 569社、賛助会員 28社

### ◆新規ご入会者様のご紹介

2016年1月よりご入会

広島県呉市  
「株式会社 荒谷商会」様

ホームページ : <http://aratanishoukai.jp/>

祝  
ご入会

### ◆自動車リサイクル士 新制度への移行手続き

新制度への移行手続きについて、A(講習会受講)の申込受付は終了いたしました。B(資料・DVD送付請求)の申込期限は、**2月29日消印有効**です。

平成25年度(平成25年4月～平成26年3月)に資格を取得された方で、まだ移行手続きのお申し込みをされていない方は、お急ぎください。

※詳細は[こちら](#) ←クリックしてBの文書をご確認ください。

## 編集後記

年頭の1月5日に自動車工業団体新春賀詞交歓会に参加してきました。自動車工業団体とは日本自動車工業会をはじめ4団体からなる組織です。当日は、業界、政官界からと多くの関係者が出席されましたが、その規模、スケールの大きさには驚かされます。私自身は初参加でしたが、日本ELVリサイクル機構として昨年につき2度目の参加となります。こうした舞台に参加できる意味は極めて大きく、自動車リサイクル業界が環境問題や循環型社会構築の一翼を担っているといった、社会的にも存在意義が認められつつあるということではないでしょうか。▼さて、一方では昨年から引き続き、市況が芳しくありません。事態は深刻です。使用済自動車の在庫減、資源相場の暴落といった経営環境の激変は各企業の屋台骨をぐらつかせています。現在、機構本部では景気動向調査を行い、実態調査をしております。その結果を基に、会員同士が結束し、何かしらのアクションを起こす動機付けとなればよいのですが。

(広報部会 部会長 永田 則男)